

経営比較分析表（令和4年度決算）

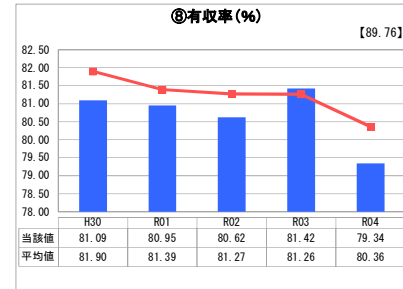
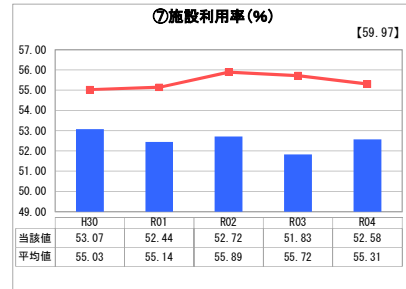
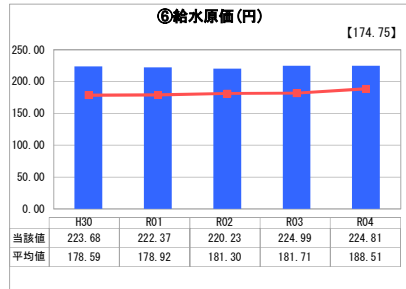
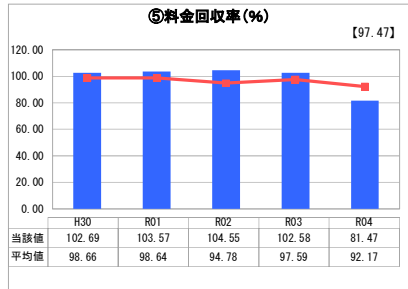
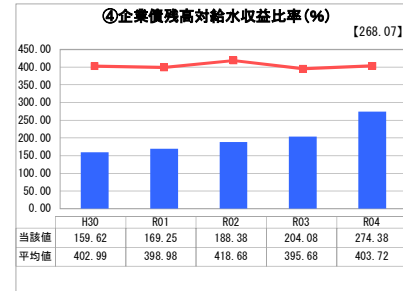
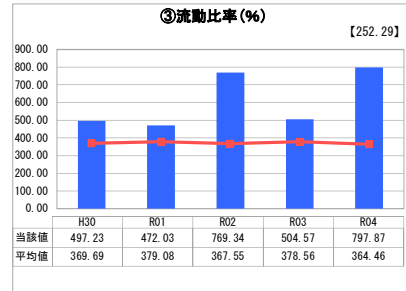
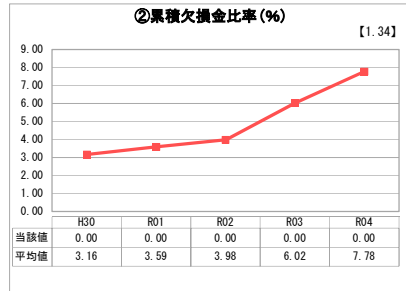
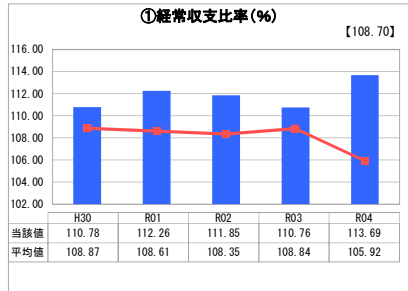
茨城県 潮来市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	77.29	97.64	4,565	

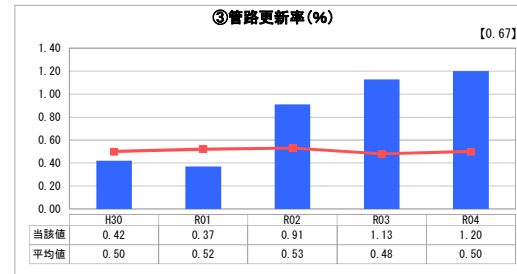
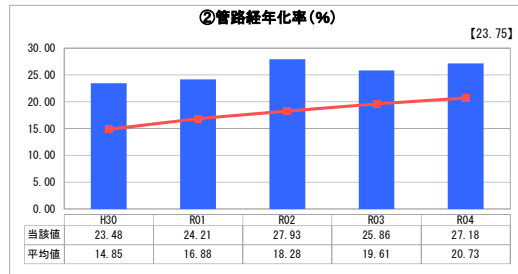
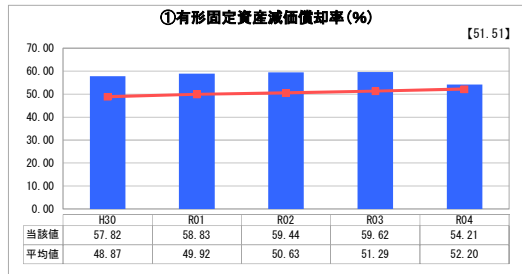
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,890	71.40	376.61
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
26,114	71.40	365.74

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、110以上であり、類似団体を上回っていることから、現状では適正な料金収入で経営されている。
 ②累積欠損金比率については、欠損金がなく、安定経営されている。
 ③流動比率については、類似団体を上回っている。これは、企業債償還金が減少していること、新たな企業債の発行等により内部留保資金を確保していることが要因である。
 ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体を大幅に下回っている。これは、企業債発行抑制が大きな要因である。
 ⑤料金回収率が今年度は100を下回っているが、これは、水道基本料金の減免事業を実施したためであり、減免分は潮来市一般会計より補助金で補填されている。
 ⑥給水原価については、類似団体を上回っているが、料金設定は、近隣市町村とほぼ同程度であり、人口密度と産業構造等の地域の特性が大きく影響していると思われる。
 ⑦施設利用率については、夏場等ピーク対応に備えるため施設能力を50%台前半の数値で推移している。施設の更新の際には、人口減少等による水需要の減少を考慮し、ダウンサイジング等を図る必要があると考えられる。
 ⑧有収率については、類似団体を下回っているが、これは、施設の老朽化による漏水量が増加しているためと考えられる。さらなる計画的な施設の更新等が必要である。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年化率ともに類似団体を上回っている。本市は、昭和37年から水道事業に取り組んでいることから、老朽化した管路が多いと考えられる。
 管路更新率についても類似団体を上回っている。これは、令和2年度に策定した「潮来市水道事業経営戦略」に基づく老朽管の更新を開始したことが要因であり、以降、類似団体の平均を上回る管路更新率となっている。
 今後も、「潮来市水道事業経営戦略」に基づく老朽管の更新を計画的に進めていく必要がある。

全体総括

現状の経営状況は、「1. 経営の健全性・効率性」から見ても、健全な経営が保たれていると考えられる。しかしながら、「2. 老朽化の状況」については依然として喫緊の課題であると考えられる。
 今後については、将来に向け、水道事業を健全な形で維持させるために策定した、「潮来市水道事業経営戦略」を基に経常経費の削減、人口減少等の水需要の減少、老朽化した施設の更新、料金の見直し等、あらゆる側面を考慮した適切な事業運営を行っていく必要がある。